

(様式第9)

東医歯医第 75号  
平成 20年10月 3日

厚生労働大臣 殿

東京医科歯科大学  
学長 大山 喬

東京医科歯科大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成19年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	112人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非 常 勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	218人	316人	534人	看護業務補助	2人	診療エックス線技師	
歯 科 医 師				理学療法士	6人	臨床検査技師	64人
薬 剤 師	20人	16人	35.7人	作業療法士	3人	臨床検査衛生検査技師	
保 健 師				視野訓練士	5人	その他	
助 産 師	14人	4人	15.6人	義肢装具士		あん摩マッサージ指圧師	
看 護 師	641人	20人	656.4人	臨床工学技士	12人	医療社会事業従事者	4人
准 看 護 師				栄 養 士	人	その他の技術員	10人
歯 科 衛 生 士				歯 科 技 工 士		事 務 職 員	86人
管 理 栄 養 士	3人	3人	6人	診療放射線技師	32人	そ の 他 の 職 員	6人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数  
 歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	691人		691人
1日当たり平均外来患者数	2,108.1人		2,108.1人
1日当たり平均調剤数	(外来) 294.5剤	(入院) 524.4剤	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	無	人
膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	無	人
胎児心超音波検査	無	人
インプラント義歯	無	人
顎顔面補綴	無	人
顎関節症の補綴学的治療	無	人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	無	人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	無	人
光学印象採得による陶材歯冠修復法	無	人
経皮的レーザー椎間板減圧術	無	人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	無	人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	無	人
CTガイド下気管支鏡検査	無	人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	無	人
筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	無	人
SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験	無	人
三次元形状解析による顔面の形態的診断	無	人
HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験	無	人
子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	無	人
腹腔鏡下肝部分切除術	無	人
悪性腫瘍に対する陽子線治療	無	人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	無	人
成長障害のDNA診断	無	人
門脈圧亢進症に対する経頭静脈肝内門脈大循環短絡術	無	人
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	無	人
声帯内自家側頭筋膜移植術	無	人
骨髄細胞移植による血管新生療法	無	人
ミトコンドリア病のDNA診断	無	人
鏡視下肩峰下腔徐圧術	無	人
神経変性疾患のDNA診断	無	人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	無	人
重粒子線治療	無	人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	無	人
31燐-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	無	人
神経芽腫のRNA診断	無	人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	無	人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断	無	人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	無	人
腓腫瘍に対する腹腔鏡補助下腓切除術	無	人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	無	人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断(急性期又は慢性期のQ熱に係るものに限る。)	無	人
エキシマレーザー冠動脈形成術	無	人
活性化Tリンパ球移入療法	有	0人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	無	人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	無	人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	無	人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	無	人
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	無	人
頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術	無	人
ケラチン病の遺伝子診断	無	人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	無	人
末梢血幹細胞による血管再生治療	無	人
末梢血単核球移植による血管再生治療	有	0人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	無	人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	無	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	無	人
超音波骨折治療法	有	5人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	無	人
非生体ドナーから採取された同種骨・靱帯組織の凍結保存	無	人
X線CT診断装置及び手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	無	人
膀胱水圧拡張術	無	人
色素性乾皮症に係る遺伝子診断	無	人
先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	無	人
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	無	人
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	無	人
腹腔鏡下直腸固定術	無	人
骨移動術による関節温存型再建	無	人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション	無	人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	無	人
自己腫瘍(組織)を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有	1人
自己腫瘍(組織)及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	無	人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断	無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有	171人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	無	人
先天性難聴の遺伝子診断	無	人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断	無	人
培養細胞による先天性代謝異常診断	無	人
腹腔鏡下子宮体がん根治手術	無	人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	無	人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	無	人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	無	人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	無	人
カフェイン併用化学療法	無	人
胎児尿路・羊水腔シャント術	無	人
筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	無	人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	無	人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	無	人
内視鏡下甲状腺がん手術	無	人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	無	人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	無	人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	無	人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	無	人
副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	無	人

(注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

## 2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	148人	・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	184人
・多発性硬化症	82人	・ウェゲナー肉芽腫症	17人
・重症筋無力症	86人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	12人
・全身性エリテマトーデス	300人	・多系統萎縮症	34人
・スモン	2人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2人
・再生不良性貧血	26人	・膿疱性乾癬	2人
・サルコイドーシス	127人	・広範脊柱管狭窄症	11人
・筋萎縮性側索硬化症	31人	・原発性胆汁性肝硬変	25人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	232人	・重症急性膵炎	1人
・特発性血小板減少性紫斑病	79人	・特発性大腿骨頭壊死症	60人
・結節性動脈周囲炎	27人	・混合性結合組織病	38人
・潰瘍性大腸炎	135人	・原発性免疫不全症候群	46人
・大動脈炎症候群	125人	・特発性間質性肺炎	57人
・ピュルガー病	53人	・網膜色素変性症	24人
・天疱瘡	45人	・プリオン病	2人
・脊髄小脳変性症	123人	・原発性肺高血圧症	3人
・クローン病	86人	・神経線維腫症	10人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	32人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・パーキンソン病関連疾患	72人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	3人
・アミロイドーシス	8人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	0人
・後縦靭帯骨化症	76人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	0人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	週に5回程度、症例検討会を実施している。 (定例会は週3回。その他随時個別に臨床部門と8回以上開催。)		
剖検の状況	剖検症例数	59例	剖検率 14.1%